

株式会社仁張工作所 環境経営レポート 2024

期間：2023年12月21日～2024年12月20日



2025年3月31日発行

環境経営レポート目次

1. ご挨拶

2. 会社概要

2-1. 会社概要

2-2. エコアクション対象範囲

2-3. 経営理念・行動規範

・品質方針

3. 環境経営方針

4. EA21推進組織及び役割・責任

・権限

5. 環境経営目標

5-1. 環境経営目標

5-2. 2024年度計画

6. 2024年度達成状況

6-1. 環境経営目標達成状況

6-2. 結果と評価

6-3. 総量実績推移

7. マテリアルバランス

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認 及び評価の結果、並びに違反・訴訟 の有無

8-1. 法令遵守状況

8-2. 違反・訴訟の有無

8-3. 近隣よりの苦情の有無

9. 2024年度の取組み

9-1. 非常事態処理訓練

10. その他の取組み

10-1. 地域の清掃活動

11. マネジメントレビュー

11-1. 経営者による全体評価

11-2. 次年度に向けて(アクション)

あとがき

1. ご挨拶

当社は2000年に品質マネジメントシステムISO9002を認証取得し、環境マネジメントシステムについては、2003年度に環境省が実施したエコアクション21試行版によるパイロット企業として参画して以来、認証取得して22年目を迎えました。

現在は「品質活動と環境活動が重なり合った経営マネジメントシステム」として経営の有効なツールと認識し、生産活動を進めております。

国連が提唱する持続可能な開発目標(SDGs)と自らの環境経営との関連性を見だし、自社の事業活動と持続可能な社会づくりとのベクトル合わせができるように取り組みました。

ここに2024年度の環境経営活動の結果をまとめ、報告いたします。

代表取締役社長 仁張 茂²

2. 会社概要

2-1 会社概要

1964年10月1日、東海道新幹線が開通した記念すべき日に産声を上げた仁張工作所は 2024年10月1日に創業60年目を迎えました。創業以来、弊社は主としてスチールやステンレスの薄鋼板を加工して各種保管庫、キャビネット、デスクなどを設計・製作するほか、幅広い用途を持つ箱物板金製品・各種精密板金製品を提供してきました。

現在では多業種・多業界における一次サプライヤーとしての板金加工部品供給を筆頭にOEM製品やオーダーメイド、オリジナル製品など多様な製品を提供し続けています。ご興味のある方は下記HPもご覧ください。 URL <https://nimbari.co.jp/>



2. 会社概要

2-2 エコアクション対象範囲

事業所名 株式会社仁張工作所

URL <https://nimbari.co.jp/>

エコアクション21の対象範囲と所在地(2024年3月現在)

◎ 本社工場 〒578-0921 大阪府東大阪市水走3丁目14番6号

◎ 仕上棟・仕上第二棟 〒578-0921 大阪府東大阪市水走3丁目8番26号

社員数 83名 売上高 1,824百万円

環境経営活動担当者の連絡先

環境管理責任者 仁張 茂 事務局 総務経理部

連絡先 Tel : 072 - 962 - 2831 Fax : 072 - 963 - 4183

E-mail sakamoto@nimbari.co.jp

事業活動（認証・登録範囲）

精密板金加工製品、別注スチール製家具・什器、箱物板金加工製品の製造
（「環境経営レポート2024」についての問合せは事務局までご連絡ください）

2. 会社概要

2-3 経営理念・行動規範・品質方針

経営理念

1. 私たちは板金加工を通じて、ものづくり、仕事づくり、ひとづくりに努力します
2. 私たちはお客様の満足を通じて仕事に誇りを持ち よりよい生活を実現し
働きがいのある会社づくりに努力します
3. 私たちは常に新しい板金加工技術について積極的に学び 自分たちのものとし
共有化することによって 技術レベルの高い信頼される会社を目指します

行動規範

1. 規律正しく行動し、仕事に対して誠実になろう
2. 決められた事を守り、妥協しないプロ集団になろう
3. 社員は仲間 相手の考えを受け止め、自分の考えを入れこみ“私たち”の考えをつくろう

品質方針

「品質に責任を持ち、顧客の信頼に応える」

3. 環境経営方針

制定日：2003年10月1日

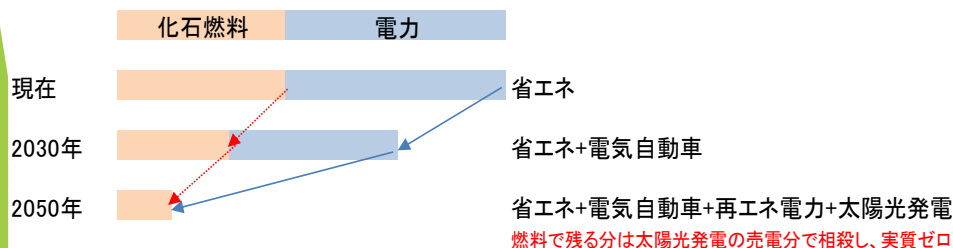


私たち株式会社仁張工作所は 経営理念に基づき 板金加工製品のモノづくり事業を遂行するにあたり 環境影響をとらえ 社員の育成と成長を通じて 自然資源を維持する ‘地球にやさしい’ 取組みを展開します

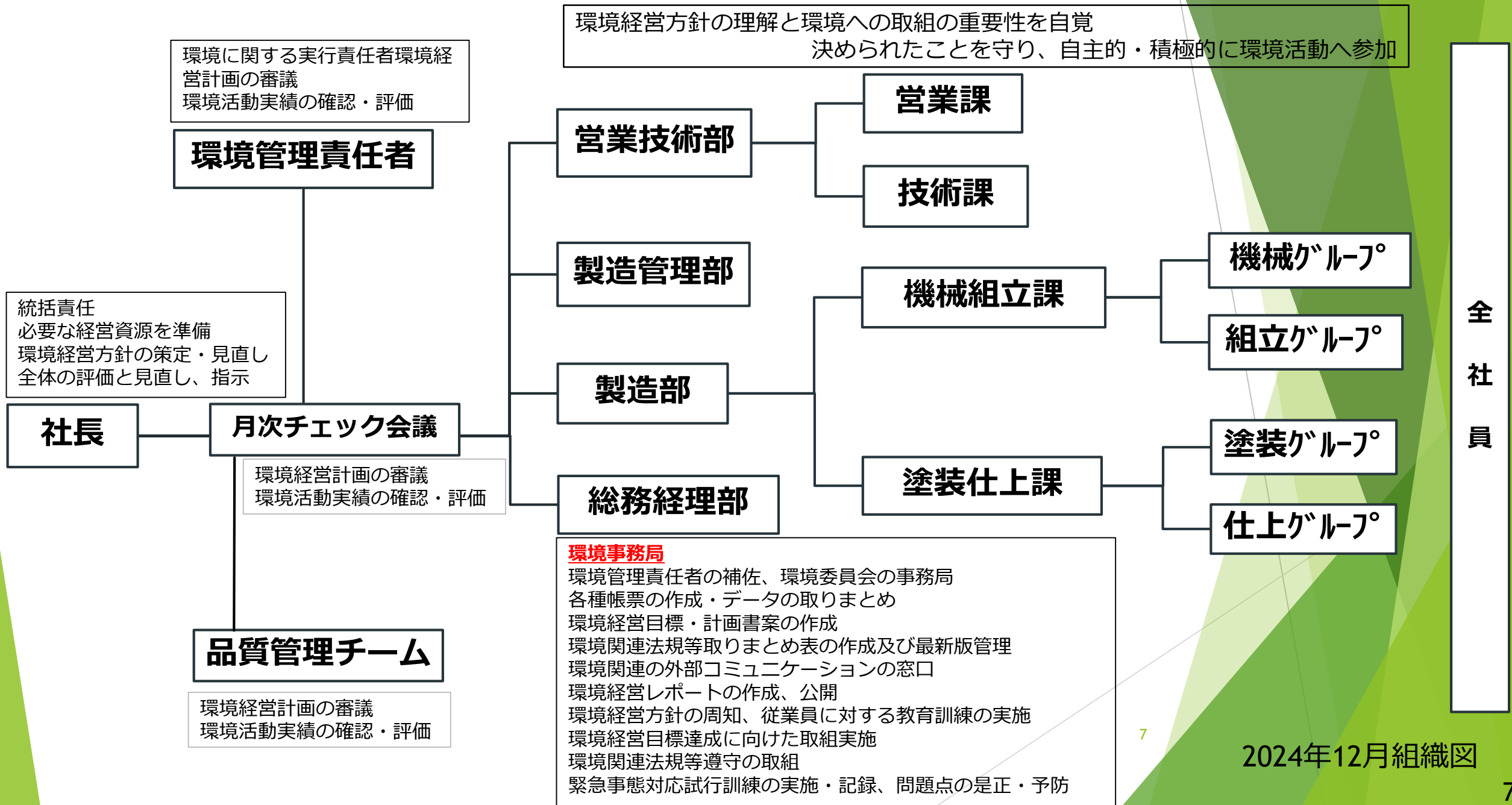
1. 現在及び将来の事業活動において 環境経営目標を定め 技術的 経済的に可能な範囲で継続的改善に努めます
2. 品質を良くすることは環境につながることを理解し、生産性向上によるエネルギーの有効活用と共に 二酸化炭素排出量の削減、廃棄物排出量の削減、排水量の削減、化学物質の削減と適正管理に努めます。
3. 働き方を改善することで、生産性向上に努め、当社の企業価値を発信します。
4. 適用される環境関連法規及び当社が個別に同意した要求事項を遵守します。
5. 環境経営方針を教育・啓発活動を通じて全社員に周知すると共に、地域社会や行政、取引先・外部委託業者などにも情報を開示し良好なパートナーシップを維持することで理解と協力を求め、環境に関する意識の向上を図ります。

2022年12月21日改訂 代表取締役 仁張茂

カーボンニュートラルに向けた取組



4. EA21推進組織及び役割・責任・権限



5. 環境負荷の実績と目標



5-1 主な環境負荷の実績

項 目	単位	2022年度	原単位 /百万円	2023年度	原単位 /百万円	2024年度	原単位 /百万円
二酸化炭素排出量	kg-CO2	529,205	312.77	532,720	323.18	594,610	325.99
一般産業廃棄物	kg	5,891	3.48	3,338	2.03	2,892	1.59
廃油 & 汚泥(特管)	kg	21,400	12.65	27,160	16.48	25,615	14.04
一般事業系廃棄物	kg			8,884	5.39	7,864	4.31
水道水使用量	m³	2,621	1.55	2,695	1.63	3,737	2.05

※電力のCO₂換算係数 0.379kg-CO₂ /kWh(関西電力R2)
※原単位は生産高100万円当たり
※一般産業廃棄物は廃プラ、木くずを産廃としてマニフェスト処理しています。

5. 環境負荷の実績と目標



5-2-1 環境経営目標（原単位数値）とその実績
※毎年の目標は、前年度実績の 2～5 %とします。

原単位は生産高100万円あたり

方針番号	番号	方針項目	目標項目	単位	2023年度 実績(基準値)	2024年度 目標	備考	2024年度 実績	達成状 況	2025年度 原単位目標
2	E-1	二酸化炭素排出量の削減	電力使用量	kWh/百万円	529.41	518.82	-2%	553.93	×	537.32
			LPG使用量	m ³ /百万円	13.83	13.56	-2%	13.36	○	13.09
			都市ガス使用量	m ³ /百万円	7.44	7.29	-2%	7.96	×	7.80
			灯油使用量	L/百万円	1.11	1.08	-2%	0.94	○	0.92
			ガソリン使用量	L/百万円	2.42	2.37	-2%	1.54	○	1.51
			軽油使用量	L/百万円	4.35	4.27	-2%	3.46	○	3.39
			二酸化炭素排出量	kg-CO2/百万円	323.18	316.71	-2%	325.99	×	319.47
	E-2	廃棄物排出量の削減	産業廃棄物	kg/百万円	2.03	1.98	-2%	1.59	○	1.55
			廃油 & 汚泥	kg/百万円	16.48	16.15	-2%	14.04	○	13.76
	E-3	排水量の削減	水道水使用量	m ³ /百万円	1.63	1.60	-2%	2.05	×	2.01
	E-4	化学物質の削減と適正管理	シンナー購入量	kg/百万円	7.83	7.67	-2%	8.33	×	8.17
			粉体塗料使用量	使用比率%	32.1%	32.7%	2%	32.2%	×	32.9%
3	E-5	企業価値の発進	一人当たり付加価値額	%	100.00	100%以上		120%	○	2024年度実績以上

5. 環境負荷の実績と目標



5-2-2 環境経営目標（総量数値）とその実績

			総量実績(原単位実績)						
方針項目	目標項目	単位	2022年度	原単位 /百万円	2023年度	原単位 /百万円	2024年度	原単位 /百万円	2025年度 総量目標
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量	kWh	909,769	537.55	872,668	529.41	1,010,389	55.93	980,077
	LPG使用量	m³	20,559	12.15	22,801	13.83	24,369	13.36	23,881
	都市ガス使用量	m³	11,536	6.82	12,268	7.44	14,513	7.96	14,222
	灯油使用量	L	1,953	1.15	1,822	1.11	1,716	0.94	1,681
	ガソリン使用量	L	3,437	2.03	3,982	2.42	2,86	1.54	2,759
	軽油使用量	L	6,773	4.00	7,177	4.35	6,318	3.46	6,191
	二酸化炭素排出量	kg-CO2	529,205	312.69	532,720	323.18	594,610	325.99	522,065
廃棄物排出量の削減	産業廃棄物	kg	5,891	3.48	3,338	2.03	2,892	1.59	2,834
	廃油&污泥	kg	21,400	12.64	27,160	16.48	25,615	14.04	25,102
排水量の削減	水道水使用量	m³	2,621	1.55	2,695	1.63	3,737	2.05	3,662
化学物質の削減と適正管理	シンナー購入量	kg	12,944	7.65	12,901	7.83	15,202	8.33	14,897
	粉体塗料使用比率	%	25.9	—	32.1	—	32.2	—	32.8%
企業価値の発進	一人当たり付加価値額	%	100	—	109	—	155	—	2024年度実績 以上

売上高百万円		
1,692	1,648	1,824

5. 環境負荷の実績と目標



5-3 環境計画の取組結果とその評価、次年度の計画

活動：○よくできた △あまりできなかった ×全くできなかった

番号	方針項目	目標項目	主な取り組み(目標達成手段)	達成状況	実行部署									
E-1	二酸化炭素排出量の削減	電力使用量	不要照明の消灯による電力削減・工場内LED	○	総務									
			働き方見直しによる残業時間の短縮働き方見直しによる残業時間の短縮	△	全部署									
		LPG使用量	塗装の作業改善、品質改善で社内生産での LPG 削減	○	塗装G									
		都市ガス使用量	クールビズ・ウォームビズを実施し冷暖房用燃料の削減	△	全部署									
		灯油使用量		○	機械組立									
		ガソリン使用量	物流の効率化で車燃料削減	○	全部署									
		軽油使用量		○	全部署									
	取り組みの評価	電力使用量	数値目標＝使用量、排出量ともに未達成。 売上増、労働時間の増加に比例して増加。 次年度は機械装置の入替を検討するため削減率は-3%で進めたい。	CO₂排出量の削減 <table><tr><th>年度</th><th>CO₂排出量</th></tr><tr><td>2023年度</td><td>323</td></tr><tr><td>2024年度</td><td>326</td></tr><tr><td>2025年度目標</td><td>319</td></tr></table>			年度	CO ₂ 排出量	2023年度	323	2024年度	326	2025年度目標	319
		年度	CO ₂ 排出量											
		2023年度	323											
		2024年度	326											
		2025年度目標	319											
		LPG使用量	数値目標＝使用量は達成、排出量は未達成。原単位では達成。 売上増、労働時間の増加に比例して増加。 次年度も同様の削減率で進めたい。											
	都市ガス使用量	数値目標＝使用量、排出量ともに未達成。 売上増、労働時間の増加に比例して増加。 次年度も同様の削減率でチャレンジしたい。												
	灯油使用量	数値目標＝使用量、排出量ともに未達成。原単位では達成。 受注の増加、労働時間の増加、冬場の冷え込みの厳しさによるが、目標達成まであと少しというところだった。次年度も削減率は同様に良さそう。												
	ガソリン使用量	数値目標＝排出量達成。 社有車の減少が影響が大きかった。次年度も同様の削減率で進めたい。												
	軽油使用量													
CO2 ₂ 排出量総量は 増加してしまいました。 また、原単位目標値も増加してしまいました。 2023年度は休業、時短等も行っていたため正直なところ前年度基準からの削減は厳しかったです。 次年度は機械装置の入替検討などもあるため、排出量削減が見込めそうです。														

5. 環境負荷の実績と目標



5-3 環境計画の取組結果とその評価、次年度の計画
活動：○よくできた △あまりできなかった ×全くできなかった

原単位は生産高100万円あたり

番号	方針項目	目標項目	主な取り組み(目標達成手段)	達成状況	実行部署								
E-2	廃棄物排出量の削減	産業廃棄物	社内3Sと分別の徹底	○	全部署								
		廃油 & 汚泥	塗装の品質及び生産改善により引火性廃油及び汚泥の排出削減	○	塗装G								
	取り組みの評価	産業廃棄物	数値目標＝達成。 ビニール及びストレッチフィルムを産廃ではなく、リサイクル業者に委託できるようになった影響が大きい。										
		廃油 & 汚泥	数値目標＝達成。 不良を削減することで排出量をおさえられた。	産業廃棄物 <table><tr><th>年度</th><th>排出量</th></tr><tr><td>2023年度</td><td>3,338</td></tr><tr><td>2024年度</td><td>2,892</td></tr><tr><td>2025年度目標</td><td>2,834</td></tr></table>		年度	排出量	2023年度	3,338	2024年度	2,892	2025年度目標	2,834
	年度	排出量											
2023年度	3,338												
2024年度	2,892												
2025年度目標	2,834												
ビニール及びストレッチフィルムを産廃ではなく資源としてリサイクル業者に回収してもらうことが可能になりました。 来年度も、全体朝礼での発信等を活用しさらに分別意識を定着させることに取り組めます。													
E-3	排水量の削減	水道水使用量	給水設備点検を行い、水漏れを防止して一般水使用量削減	○	総務								
	取り組みの評価	水道水使用量	数値目標＝未達成。受注量に比例して増加。	総排水量の削減 <table><tr><th>年度</th><th>排水量</th></tr><tr><td>2023年度</td><td>2,695</td></tr><tr><td>2024年度</td><td>3,737</td></tr><tr><td>2025年度目標</td><td>3,662</td></tr></table>		年度	排水量	2023年度	2,695	2024年度	3,737	2025年度目標	3,662
	年度	排水量											
2023年度	2,695												
2024年度	3,737												
2025年度目標	3,662												
原単位目標1.59 m³ に対し 2.05 m³ と増加となりました。 受注量の増加に加え、夏季の気温上昇によるクーリングタワーの使用頻度が増加しました。 次年度も、使用量推移を監視し、ムダやロスの削減に取り組めます。													

5. 環境負荷の実績と目標

5-3 環境計画の取組結果とその評価、次年度の計画

活動：○よくできた △あまりできなかった ×全くできなかった

番号	方針項目	目標項目	主な取り組み(目標達成手段)	達成状況	実行部署																
E-4	化学物質の削減と適正管理	シンナー購入量	前処理ラインの利用でシンナー拭きを減らす	○	塗装G																
			作業ミスによる使用量増加の抑制	○	塗装G																
			季節により使用するシンナーを変えることで揮発を抑制する	○	塗装G																
		粉体塗料使用量	粉体塗装適用製品を広げ VOC を削減する	○	塗装G																
	取り組みの評価	シンナー購入量	数値目標＝購入量未達成。 季節による使用シンナーの変更は実施しているが、受注の増加による影響が大きい。 次年度も同様の削減率で様子をみたい。																		
		粉体塗料使用量	数値目標＝購入量未達成。 昨年より購入量は増やせたが、目標には届かなかった。次年度も同様の目標値のまま顧客への働きかけを続ける。																		
	シンナー購入量を削減 季節による使用シンナーの変更は実施していますが、 目標は達成できませんでした。 来年度はさらに細かく作業を見直し、削減のポイントをつかみたいと思います。 粉体塗料使用量の変化 粉体塗装への切り替えがなかなか進まず、目標が達成できませんでした。 今後も、粉体塗装への移行提案商品の検討を続けます。			シンナー購入量 <table><thead><tr><th>年度</th><th>購入量</th></tr></thead><tbody><tr><td>2023年度</td><td>12,901</td></tr><tr><td>2024年度</td><td>15,202</td></tr><tr><td>2025年度目標</td><td>14,897</td></tr></tbody></table> 粉体使用比率 <table><thead><tr><th>年度</th><th>比率</th></tr></thead><tbody><tr><td>2023年度</td><td>32.1</td></tr><tr><td>2024年度</td><td>32.2</td></tr><tr><td>2025年度目標</td><td>32.8</td></tr></tbody></table>			年度	購入量	2023年度	12,901	2024年度	15,202	2025年度目標	14,897	年度	比率	2023年度	32.1	2024年度	32.2	2025年度目標
年度	購入量																				
2023年度	12,901																				
2024年度	15,202																				
2025年度目標	14,897																				
年度	比率																				
2023年度	32.1																				
2024年度	32.2																				
2025年度目標	32.8																				

5. 環境負荷の実績と目標

5-3 環境計画の取組結果とその評価、次年度の計画

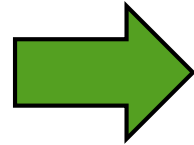
活動：○よくできた △あまりできなかった ×全くできなかった

番号	方針項目	目標項目	主な取り組み(目標達成手段)	達成状況	実行部署
E-5	企業価値の発進	一人当たり付加価値額	就労時間の見直し	○	全部署
			環境経営レポートの社内外への発信	○	総務
			リスクリングの推進	○	全部署
			付加価値額の監視	○	総務
	新年度より、就業時間を7時間30分から7時間15分へ短縮しました。 就業時間の短縮は、社員の働き方に対する意識改革(時間内にやりきる、必要な時は残業する、などメリハリをつける)に大きな影響があったと思います。 産休・育休を利用する社員も増え、社内ではよりリスクリングや応援体制が求められる状況となりました。 売上は昨年比111%、一人当たり付加価値額は120%と大きく増加しました。				

7. マテリアルバランス

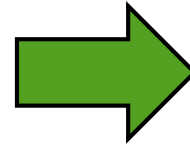
インプット

エネルギー	
・ 電力	1,010,389 kWh
・ LPG	24,369 m ³
・ 都市ガス	14,513 m ³
・ 灯油	1,716 ℓ
・ ガソリン	2,816 ℓ
・ 軽油	6,318 ℓ
金属材料	
・ 鉄板	1,387,674 kg
・ ステンレス板	55,456 kg
・ アルミ板	70 kg
化学物質	
・ 溶剤塗料	20,705 kg
・ 粉体塗料	9,855 kg
・ シンナー	15,202 ℓ
水	
・ 上水道	3,737 m ³



事業活動

営業
設計・開発
工程計画
資材調達
製造
物流
出荷



アウトプット

二酸化炭素排出量	594,610 kg-CO ₂
リサイクル	
・ スクラップ(鉄)	417,830 kg
・ スクラップ(ステンレス)	29,240 kg
・ スクラップ(アルミ)	135 kg
・ 引火性廃油・汚泥	25,615 kg
廃棄物排出	
産業廃棄物は、廃プラ・混合等の合計	
・ 産業廃棄物	2,892 kg
・ 木くず	0 kg
・ 一般事業ゴミ	176,940 L
水	
・ 排水	3,737 m ³

8. 環境関連法規等の法令遵守の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

8-1 法令遵守状況

適応法令(条例)	該当する項目	遵守状況
廃棄物処理法	保管・委託の適正管理 特別産業廃棄物管理責任者設置 産業廃棄物管理票交付等状況報告書提出	適合
大阪府流入車規制条例	トラック	適合
フロン排出抑制法	廃棄時の適正処理 簡易点検、定期点検	適合
下水道法	水質測定	適合
悪臭防止法	トルエン及びキシレンの使用	適合
騒音規制法 振動規制法	ターレットパンチプレス、プレスブレーキ、レーザー 複合機、シャーリングマシン、エアーコンプレッサー、 窒素発生装置、クーリングタワー	適合
PRTR法	塗料溶剤	適合
顧客要求事項	環境に配慮した製品設計・部材調達RoHS、REACH対応。 有害化学物質含有量の少ない部材調達、供給者ネットワーク確 立。顧客からの調査依頼対応	適合

※2024年11月内部監査にて遵守状況確認済

8. 環境関連法規等の法令遵守の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

8-2 違法・訴訟の有無

違法・訴訟等も過去3年間ありませんでした

8-3 近隣からの苦情の有無

特にありませんでした。

9. 2024年度の取組み

9-1 非常事態処理訓練(2024年11月15日)

塗装ブースの循環水流出を想定して、
緊急事態処理手順書に基づき応急処置
訓練を実施しました



手順書通り実施し、流出防止処置の
確認が出来ました。

※なお、今回の訓練による手順書見直しや
変更の必要ありませんでした。

ただし、EA21で運用可能な手順書再作成します

10. その他の取組み

10-1 地域の清掃活動(2024年6月6日)



環境月間の活動として、
毎年恩智川沿いの道の
清掃活動を行っています



11. マネジメントレビュー

11-1 経営者による全体評価

- ・ 2024年度は所定内労働時間の見直し（7時間30分→7時間15分）、産休・育休の取得推進など社員満足への取り組みをおこないました。
- ・ 新たに仕上B棟の建設が始まりました。
レイアウトや動線については現場の社員にまかせることで、自発的な意見交換ができています。
- ・ 排出係数“0”の電力調達について、現在契約中の電力会社より情報収集を始めました。
今年は見送ることとしましたが、来年以降も状況をみながら検討は続けていきます。
- ・ 社内作成のY o u T u b e、販売代理店の募集、オリジナル製品の開発試作などしごとづくりの取組により、売上高は昨年比11%増、利益は55%増となりました。
- ・ 2024年11月エコアクション21更新審査の結果は適合評価でした。
総合コメントでは働き方の工夫による生産性の向上が評価されました。

（参考） QMS/EMS定期マネジメントレビュー(2024. 11. 28)、エコアクション21更新審査(2024. 11. 20-21)、2024年度決算報告書

11. マネジメントレビュー

11-2 次年度に向けて(アクション)

- ・ 環境経営方針、実施体制は変更しません。
目標設定は、総量と原単位の2本立て（前年度基準）とします。

環境経営方針
環境経営目標・計画
実施体制他

☒ 変更なし	☐ 変更あり
☒ 変更なし	☐ 変更あり
☒ 変更なし	☐ 変更あり

- ・ 次年度は所定内労働時間（7時間15分）を定着化させ、労働密度を高めて効率的に働き、仕事のパフォーマンス向上を目指します。
- ・ 有効な設備更新と活用により、エネルギー効率を高め、省エネにつなげていきたいと思いをします。

以 上

あとがき

2024年度環境経営レポートを最後までお読みいただきありがとうございます。

売上が激増する中、リスクリング（一人ひとりが今までの仕事だけでなく、他の仕事もできるようにスキルアップする）を進めることで応援体制ができ超過労働をコントロールすることが可能になりました。

また、設備投資による作業の効率化や所定内労働時間の短縮による社員の時間に対する意識改革が、一人当たり付加価値額の向上につながったと感じます。

環境に関する情報も、社内コミュニケーションツールのdirectを活用し、社員一人ひとりにSDGsへの意識づけができるよう発信していきたいと思います。

環境事務局 坂本知加恵
仁張 茂(環境管理責任者)
初版発行 2025.3.31